市立旭川病院
医療連携NEWS

No.18　2019.1.17

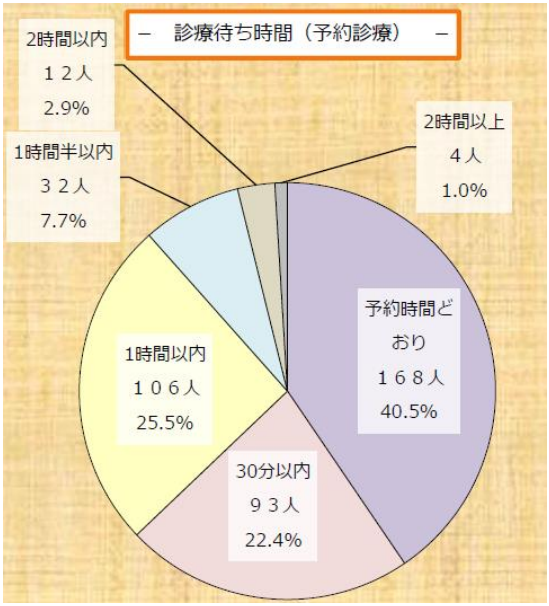
外来患者アンケート調査の結果について

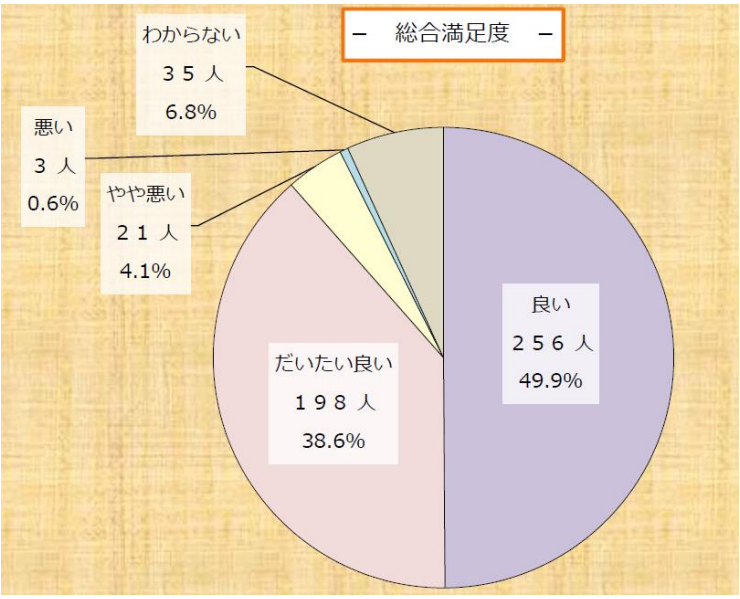
市立旭川病院では，入院患者と外来患者それぞれにアンケート調査を行って病院運営の改善に活用しています。平成３０年度は外来患者アンケートを１０月に実施し，５２３人の患者さんにご回答いただきました。結果は１２月下旬に院内掲示し，また，当院ホームページ上でもお知らせしています。

予約の場合の診療待ち時間について，「予約時間どおり」が４０．５％となっています。前回調査では１９．８％でしたのでこの点では大きく改善されています。全体でも短縮傾向ではありますが，診療科による違いがあり，また，１時間以上の待ち時間があった方が１１．６％ですので，長くお待たせしない努力を継続する必要があると考えています。

総合満足度では，「良い」「だいたい良い」の合計割合が前回調査よりわずかながら増え，「悪い」「やや悪い」の合計割合がわずかに減っています。患者さんの満足度が高まり選んでいただける病院になれるよう努めてまいります。

（患者サービス検討委員会・医事課業務係）





市立旭川病院「胸部外科」のご紹介

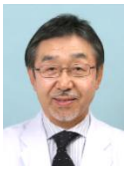
１　特徴

胸部外科は昭和４６年（１９７１年）に道北で初めて心臓血管外科手術を担当する診療科として開設されました。以来半世紀近くにわたって地域に良質な心臓血管外科手術を提供し続けており，体外循環下手術において５,０００例を超える豊富な経験を有しています。

また，人工心肺を用いないオフポンプ冠動脈バイパス術や、放射線科と共同で大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術など低侵襲治療も行っています。特に近年は、僧帽弁形成術や大動脈弁形成術などの弁形成術や自己弁温存大動脈基部置換術に力を注いでいるところです。

超高齢者や重症例を含め、心臓から大血管、末梢血管に至るまで，あらゆる心臓血管外科疾患に対する地域の幅広いニーズに応えられるようこれからも努力してまいります。何かお困りのことやご要望などがございましたらどうぞお問い合わせください。

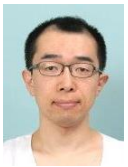
２　医師



病院事業管理者
青木　秀俊

診療部長
村上　達哉

診療部長
杉木　宏司



医長
内藤　祐嗣

医員
庭野　陽樹

３　診療分野

先天性心疾患	心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症 など
後天性心疾患	虚血性心疾患、弁膜症、収縮性心膜炎、心臓腫瘍 など
不整脈外科治療	心房細動に対するMaze手術、ペースメーカー植え込み手術 など
大動脈疾患	胸部大動脈瘤、大動脈解離 など
末梢血管疾患	腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症(ASO)、バージャー病、急性動脈閉塞 など
静脈疾患	下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、肺動脈血栓塞栓症 など

認定看護師より

市立旭川病院では，日本看護協会の認定を受けた9分野12名の認定看護師が，その専門性を生かして活動しています。今回は，皮膚・排泄ケア認定看護師からの情報をご紹介します。

看護専門外来としてスキンケア外来（予約制）を開設しています。ストーマや褥瘡の悩みなどお困りの患者さんがいらっしゃいましたらお問い合わせください。　【スキンケア外来　内線2539】

紙おむつの歴史

皮膚・排泄ケア認定看護師　大崎　希世子

世界で最初の紙おむつは，1940年代半ばにスウェーデンで誕生しました。当時スウェーデンはドイツに経済封鎖され綿花の輸入が止まり赤ちゃんの布おむつが不足して，政府がおむつを綿布から紙に移行するよう指導して開発されたのが紙おむつでした。

最初は，吸水性のある紙を何枚も重ね外側をメリヤスの袋で覆った簡単なものだったようです。その後改良されながら各国に広がり，アメリカで多くの工夫改良が加えられ普及して行きました。

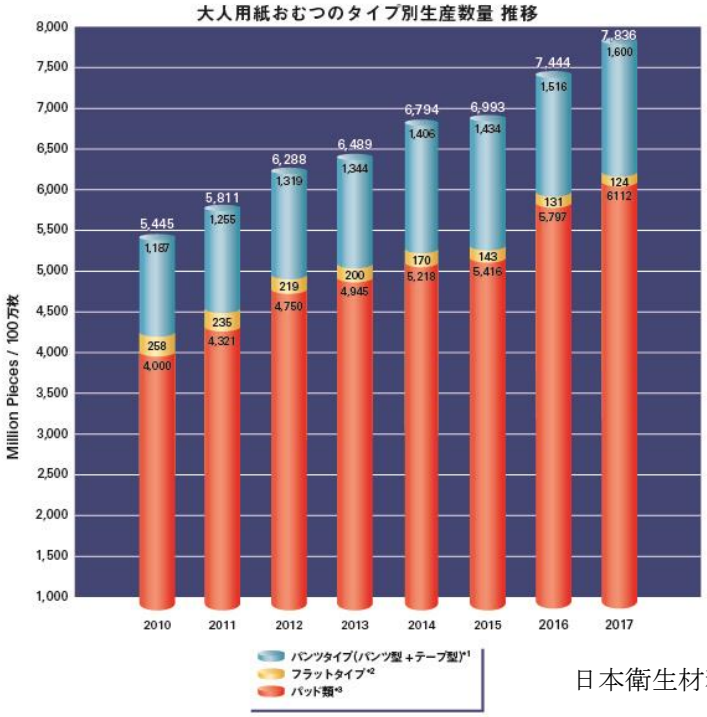
日本では1950年代前半に初めて赤ちゃん用の紙おむつが発売されましたが，これは紙綿を重ね布で包んだもので，おむつカバーがないと使用できませんでした。その後1963年，赤ちゃんの肌に触れる部分に不織布が使用され外側には防水紙が採用された現在の構造と機能を持った最初の本格的なおむつが発売されました。

大人用紙おむつは1960年代前半には使用されていましたが，一般にはなじみが薄く，病院が中心でした。しかしその頃は病院でも布おむつが主流の時代でした。

- 1977年 アメリカから幼児用紙おむつが輸入・販売
- 1981年 国産のテープ型紙おむつ誕生
- 1984年 高分子吸収材が採用された紙おむつが登場

高分子吸収材の採用により，紙おむつが薄くコンパクトに，尿漏れ・肌への逆戻りが改善され，また，購入時に持ち運びやすく，ごみ容量も減少するなど紙おむつの性能が飛躍的に向上しました。

1994年，大人用紙おむつに下着のように自ら装着できるパンツ型が登場しました。



近年，大人用紙おむつの生産よりも尿を吸収するための尿とりパットの生産が大きく増えています。使用者は尿だけでしたらパットだけの交換で済みますし，介護負担を軽減できるメリットもあります。使用済み紙おむつの量が半減したとも言われているそうです。

日本衛生材料工業連合会ホームページより

「糖尿病教室」について

市立旭川病院では，糖尿病の患者さんを対象に，糖尿病教室を開催しています。

医師，糖尿病看護認定看護師，視能訓練士などが講師です。管理栄養士の回だけは予約制で当院の患者さんのみを対象にしていますが，それ以外は予約不要でどなたでもご参加いただけます。

もし関心をお持ちの患者さんがいらっしゃいましたら，一度当院糖尿病センター外来に連絡されるようお伝えください。

糖尿病教室の日程は，月末までに翌月の内容を決めて院内掲示しています。ご不明な点はお問い合わせくださいますようお願いいたします。

（診療科からのご案内）

総合内科　鈴木聡

総合内科では発熱、頭痛、咳、息切れ、咽頭痛、リンパ節腫脹、腹痛、下痢、むくみ、体重減少、手足の痛みなど、日常診療で遭遇頻度の高い症状の診断・治療を行っています。原因を特定しづらい症状や、入院が必要なものの紹介先に悩む病態の初期対応、複数の問題点を抱え対象診療科を絞りづらい患者様の受け入れを積極的に行っています。午後も外来診療を行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

（診療科からのご案内）

糖尿病・代謝内科　宮本義博

糖尿病センターでは教育入院、合併症評価、入院が困難な患者さんへの外来での自己注射導入などを実施しております。糖尿病病診連携パスも行っておりますので、教育や合併症評価等が必要な患者さんはご紹介下さい。地域医療連携課に連絡していただければ予約が出来ますので、宜しくお願いいたします。

発行
〒070-8610　旭川市金星町１丁目１番６５号　市立旭川病院　地域医療連携課
TEL:(0166)24-3181(内線5373)　FAX:(0166)26-0008　E-mail:renkei@city.asahikawa.hokkaido.jp